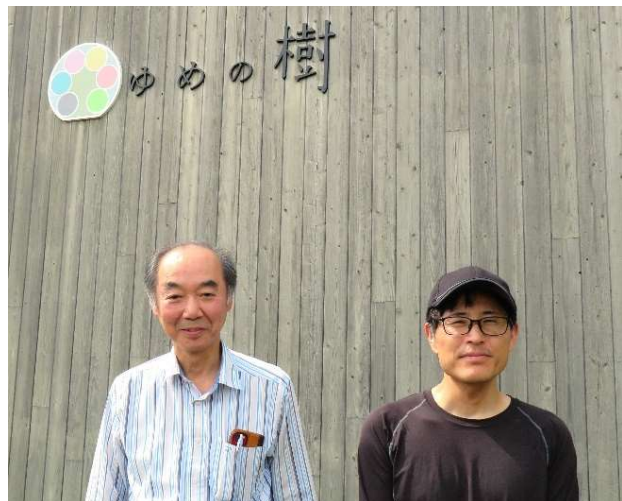


「あとにつづく者達のために…」

丹波栗やシャインマスカットを生産する自治会法人



左から 専務の柳川氏と生産営業担当の中井氏

き っ か け

◆耕作放棄地を農家だけの問題とせず、地域全体で取り組んでいきたいとの思いから取組を開始。

◆野上野（のこの）地区の地域資源（人・物・金・情報）を循環させていくことで財政的に自立・活性化した自治会組織を目指し法人を設立。加工品製造販売と飲食店経営を開始した。

◆法人設立前から耕作放棄地で栗園の整備を行っている。

取 組 内 容

◆耕作放棄地を整備し、地域をブランド化するための丹波栗と収益性の高いシャインマスカットを生産。

◆丹波栗は自社飲食店において、栗ご飯として提供（期間限定）。シャインマスカットは、生鮮での販売と（株）やながわ（丹波市）で加工し、道の駅や自社飲食店等で販売。

◆食文化を伝えていきたいため、食育や手作り体験を実施。食育では、保育園児による田植え、稲刈りを行っている。手作り体験では丹波の特産品を使用した加工体験等を実施。



保育園児による田植えの様子（（株）ゆめの樹野上野提供）

自治会法人 株式会社ゆめの樹 野上野

◆所在地
兵庫県丹波市
◆お話を伺った方
代表取締役専務
柳川拓三

◆取組内容
・全国的にも珍しい自治会100%出資の法人組織
・耕作放棄地を活用して、丹波栗やシャインマスカットを生産。



上：一番人気の栗ご飯を炊くかまど

下：シャインマスカットを使った加工品
（（株）ゆめの樹野上野提供）



◆生産者が、生産・加工販売をし、収入を増やすことが理想であるが、経済的に加工施設を持つことや慣れていない川下も見据えた販売を行うことは難しい。そのため、企業などと連携した体制構築が大事。

今 後 の 展 望

◆丹波ブランドを育んでもらった農地をいかに後の世代に残すかを考えていきたい。

◆地域だけで活動することは自ずと限界があることから、今後は地域外の力を呼び込むことも大事だと考える。

2024年6月10日調査